

ユネスコシンポジウム
～戦後80年の今、私たちにできること～

2026年 3月28日 土曜日

三田高校 音楽講堂

〈プログラム〉

①背景・経緯

②委員会年間活動報告

③事前討論

④語り部さんによる講話

しょうけい館 山本有紀乃さん 「沖縄戦を生き抜いた2人の女性」

⑤ダイアログ1 ～私たちにできることの追求～

⑥ダイアログ2 ～高校生と現代を捉えなおす～

⑦最後の言葉

⑤ダイアログ1 ～私たちにできることの追求～

↓の4つのカードを用いて、自分が戦争・平和に対して
なにを思っているのかを話し合いました。

1.戦争と自分の距離

戦争は遠い世界の話？
それとも、いつか自分にも関係する現実？
ニュースの中の出来事と自分の生活は本当に
切り離されているのか

Q1
戦争を「遠い」と感じるのはなぜだと思いますか？
距離を感じることにどんな理由があるのでしょうか？

Q2
どうして戦争に対して関心を持つべきだと思いますか？

2.偏見・思い込み

知らないことは、ときに「決めつけ」になる
その境界に気づけるかどうか

Q1
自分が無意識に持っている偏見にはどんなものがあると思
いますか？

Q2
なぜそのような偏見を持っていると思いますか？
またどのようにその偏見を改善しますか？

3.平和って何？

「戦争がない」だけで平和なのかそれとも、
もっと広い意味があるのか

Q1
あなたにとって“平和”とはどんな状態ですか？

Q2
普段の生活の中で、“平和だと感じる場面”と“そうでないと
感じる場面”はありますか？

Q3
自分にできる“平和への行動”には何があると思いますか？

4.戦争の影響

戦争は終わっても
影響は静かに続いていく

Q1
戦争は「終戦したら終わり」だと思いますか？
その後どんな影響が残るのでしょうか？

Q2
戦後の苦しみにはどんなものがあると考えられますか？

Q3
戦争の記憶を語り継ぐことには、どんな意味がありますか？

⑥ダイアログ2 ～高校生と現代を捉えなおす～

①グローバル化って何だろう

②世界の国の文化について国名をあげて知っていることを話してみましょう。

③あまり文化を知らない国を挙げ、その共通点や気づいたことについて話し合おう。

④グローバル的な視点の偏りは
どのような効果や影響をもたらすだろうか。

⑤グローバル的な視点の偏りと向き合うために1人1人ができることを考えよう。

上記の問いを1つずつ司会の進行に沿って意見共有をした。
参加者全体で今の課題を知り、考えを深め行動をおこすきっかけとなった。



2つのダイアログを通して、私たちが今、自発的に行動するにはまず何かから始めればいいのかを探求し、全体でも意見を共有することができました。

しょうけい館様から語り部の方を招いて、実際に太平洋戦争の沖縄戦で負傷した2人の女性のお話をさせていただきました。



【全体を通しての感想】



開催の数か月前から本シンポジウムのテーマ決めや語り部さんへの依頼、活動報告作成など様々な仕事をとおして、このような機会を主催する立場として、すごくやりがいを感じた。

特に、ダイアログで意見交換をする際に参加者の皆さんが自分の意見を積極的に伝えようとする姿が印象に残った。このシンポジウムは新企画班の活動の1つとして後に繋いでいきたい。

そして三田高校のユネスコ委員を原点として、世の中に平和が広がってほしい。

大成功でした！